

実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	26
学校名	富山県立高岡工芸高等学校

学校の現状と課題	本校はこれまで、地域社会の様々な産業分野で活躍する人材を輩出してきた。今後もその役割を果たすとともに、科学技術の急速な進展や多様化に対応できる能力、新しい価値の創出や課題の解決に貢献できる技術人材の育成が急務となっている。
テーマ(特色)	新しい価値の創出を目指したデザイン教育の推進
設定した「テーマ」の達成状況	新しい価値の創出を目指しデザイン的な視点でのアイデアを挙げ、それを具体性のある解決策として提案させることができた。さらに生徒がこれまでに学んできた知識や技術を使いモデルを製作する中で、さらに良いものにしようと解決していく力を育成することができた。また、ものづくりの目的や意義、社会的な責任を考えさせながら、デザインの発展的な学習を進めることができた。
実施内容 (具体的に記入する)	人々の生活に便利さや楽しさをもたらそうと、置き方や形の変形により様々な使い方ができるブロック型の家具を提案した。 試作段階においては、スケッチや小型のモデル、試作品などを用いて、使用方法、大きさ、形、素材、色彩、パーツの接合方法などを検討した。本製作においては、試行錯誤の未決定した断熱材、プラスチックの緩衝材、畳表、ファスナーなどの材料を用いて、手作業で丁寧にモデルの製作を行った。結果として、70cm四方のパネル同士を立体的に組み合わせることで形を変えたり、できた形の置き方を変えたりすることで、使用者の状況や好みに合わせて様々な使い方ができる家具を製作した。 研究成果は工業技術論文発表大会(ミラコン2025)で発表し、最優秀賞を受賞することができた。
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	今回の取り組みでは、チームで様々な意見を出しながら取り組むことにより、問題解決に必要な多角的な物の見方や考察力、スケジュールを計画し実行する力を身に付けることができた。特に製作においては互いにフォローしながら役割分担をすることで、協調性や助け合う大切さを知ることができた。また、成果を多くの人の前で発表することで、表現力や伝達力を高めることができた。プロジェクトを通し、ものづくりの難しさを経験しながらも達成感を味わい、ものづくりの楽しさを実感した。 自ら問題の発見・解決に取り組む、学んだ知識・技能を実践・応用する力、他者と協働しながら、社会に新たな価値を創造する力を育成することができたと思われる。
対象者(学年・人数など)	デザイン・絵画科 2年生(6名)
実施実績	4月 研究テーマ設定
	5月 アイディアの検討
	6月 アイディアの検討
	7月 アイディアの検討
	8月 アイディアの検討
	9月 試作品の製作
	10月 改善策の検討
	11月 本作品の設計、製作
	12月 本作品の製作
	1月 工業技術論文発表大会(ミラコン2025)での研究発表
	2月 本作品の改善
	3月 本作品の改善

